

2023年7月1日

学校法人三幸学園
大阪こども専門学校
校長 山本 稔 殿

学校関係者評価委員会
委員長 西寺 志裕子

学校関係者評価委員会実施報告

令和4年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 西寺 志裕子（飛鳥未来高等学校 大阪キャンパス キャンパス長）
- ② 六田 智之（社会福祉法人 粉浜会 粉浜学園 園長）
- ③ 鮫島 成美（第10期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月28日（会場 大阪こども専門学校 401教室）

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 大阪こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 片淵 卓也

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 西寺 志裕子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 教員の指導力育成など資質向上のための取り組み

学園で制定するカリキュラムポリシーに則り、「生徒の涵養したい能力」のカテゴリに準じた教科間の連携を図る教科会を年 3 回実施。専門的知識を教員同士で交換し合うことはもちろん、互いの教科において連携できる点の発見と協働をさせることができた。

(2) 1年次の保育の魅力付け

目標・意欲喪失による退学率低減のため、1年生に対する教育イメージを統一させるべく1年間を4つに期分けした「スモールステップ」を制定し、全教職員会議での共有や職員室掲示、定期的発信文書への記載などを実施。教職員間の認識統一を図ることができた。また、生徒満足度向上のため、生徒の満足感に直結する要素のあぶりだしを行い、注力ポイントに絞ったアプローチができるよう情報整理を実施した。

(3) 職業定着率向上のための取り組み

昨年度本会において委員より頂戴した「若手(特に1年目)は上司に相談や面談ができる環境があっても、自らその環境へ行ける者は少なく、一人で抱えたまま悩んだり辞めてしまったりしている」という事実を受け、本事例とともに「定期的面談機会を創出することの大切さ」について広く周知することに努めた。また、業界関連施設と(保育園・幼稚園・こども園・施設など)本校とにおいて実習就職連絡会を開き、その中でも本情報を周知し現場の若手支援に関する手立てとして提示した。

(4) 対面による学校運営

2022年度はコロナウイルス感染症の対策を講じつつ、年間を通して対面で学校運営を行った。これまで学校生活をオンライン中心で過ごしてきた生徒であるため、対面での学校生活に順応できるよう、授業の運営方法等(環境面含む)の強化を行った。

(5) 授業アンケート、卒業生アンケートの評価向上

年に 2 回実施する授業アンケートと年に 1 回実施する卒業生アンケートにおいて、生徒の満足度を図ることができるため、より良い授業、教育サービスの提供ができるよう、アンケートを意識(特に対面での運営になるため)し、よい授業の実施事例を共有するなど強化を行った。

② 学校関係者評価委員会コメント

(西寺委員)

・コロナ禍を経て対面授業に戻っているということであるが、通信制高校は感染症とは関係なく自分のペースで登校する生徒が多い。対面授業を実施する上で、専門学校で実施している工夫を知りたい。

(許斐さん)

・登校する意味・意義付けに注力している。生徒伝達の際の文言統一やオンライン授業を希望する生徒への回答例定時を行った。対面行事参加に対する保護者からの訴えについては担任力に差が出た。

(西寺委員)

・授業の工夫ではなく学生への落とし込み強化のみで、授業の工夫はなかったのか。

(許斐さん)

・コロナ禍では学校に来ることが怖いという理由でのオンライン授業選択は不可としていた。自宅でオンライン授業受講がマイナスにならないよう、教科担当教員へは授業構成を考えていただくよう周知し授業運営いただいた。高校時代に不登校だった生徒の本校進学も増えており、入学前登校プログラムでの関りや友人関係構築のサポートを学校全体で意識するようにしている。

(六田委員)

・学園のビジョンは教育機関にいる者として非常に共感する。まずは学校に来るというスモールステップから進めることが良いと思う。

(鮫島委員)

・若手職員は、職場の上司には相談しづらいが、学校の先生に相談することができたので、園と学校の繋がりがあるのは良かった。職場の人事担当者から学校の話を知ることができると大変嬉しい。

(小島さん)

・職業定着率向上のために注意をしていることや、学校のサポートとして求めるものがあれば教えていただきたい。

(六田委員)

・昨年度学校に初めて訪問した際、掲示物に「社会人」というフレーズが溢れていること、挨拶ができることに感心した。挨拶ができることは当たり前ではない。卒業生の職員から、先生と距離が近く相談できる環境にあり、挨拶は学校の風土であると聞いた。退職者の理由は、技術やスキルに対することはほとんどなく、人間関係が多い。定着については、幼稚園児から大切にしている「居場所」を作ることができる環境にすべきだと考えている。

(小島さん)

・本校卒業後、今も保育者として仕事を続けられている理由を鮫島委員に教えていただきたい。

(鮫島委員)

・続けられている1番の理由は、人間関係が良いこと。人間関係が良いので居心地が良く、年次が上がるにつれ任されることが増え頼りにされていると感じる。上司も気にかけてくださることが多い。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・社会経済のニーズを踏まえた将来構想について、全教職員には浸透できていない
- ・社会経済のニーズを踏まえた将来構想について、保護者・保証人に対し、周知はできたが、理解まで達していない。

② 今後の改善方策

- ・全教職員対象に学外の業界関係者による社会経済のニーズについて情報共有いただくとともに、学校が掲げる理念や目的、3つのポリシーを付随して伝えるようにする
- ・入学前の保護者・保証人説明会で周知していくと共に、アンケートにおいて理解度を図る。また理解度が低い保護者・保証人については、個別のアプローチを行う。

③ 特記事項

入学前保護者説明会(オンデマンド)実施であるため一方通行 理解度が図れていないため、改善すべきだと感じている

③ 学校関係者評価委員会コメント

(片淵さん)

- ・社会の動きに合わせていく必要性を感じている。関東圏で定員に満たない園の話聞くが、関西圏では現状どうか。見込みも含めて教えていただきたい。

(六田委員)

- ・大変難しい問題だと捉えている。現状、大変人気な園もあるが、多くの園では待っていれば園児が溢れるわけではない。本園は所在地が区の境にあるため、両区から応募はあるが園児は集まらず、淘汰の時代になってきていると感じる。やりたい保育があっても、支持者がいても、園児が集まっていなければ意味を成さない。魅力を伝えるには園を見てもらうことが一番であるため、昨年度は50名程度の園児募集に対し、100件以上の個別対応を行った。また、民間保育所の場合は行政も絡んでくるため、保護者の第3希望までに入らなければ意味がないため、その点も含め、対応している。

(許斐さん)

- ・大阪市担当者から園での募集活動には保護者に気に入られる保育者が必要だと伺い、保護者が入園の鍵を握っていることを改めて知った。

(六田委員)

- ・子育て支援や説明会、園見学に保護者に来てもらうことが一番だと思っている。

(鮫島委員)

・子育て支援対応を行っているが、園を選んでもらえる要素として保育者ならではの家では少し難しいプログラムを実施している。保育内容もカリキュラムの多さが人気のポイントになっていると思う。

(六田委員)

・どれだけ良いと考える保育だと思っただけの自己満足で、通う園として選ばれなければ意味がない。保護者が良いと思われるのは、カリキュラムが詰まってお認知的要素がより多い保育である。学校でも学ぶ集団でいる意味を大切にしたいが保護者の希望は違うため、園児募集は難しく、集客にはカリキュラムを詰めないと集まらないのが現状である。

(許斐さん)

・今後のリアルな状況を養成校としても伝えていきたいと感じた。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制はあるものの、更なる整備（理解浸透や認識の統一）が必要
 ・情報システム化は促進されてきており、活用率は上がっているが、非常勤講師を含め、学校全体で考えると、システムの理解度、活用方法にバラつきがあるため、より高い水準で活用できるよう改善していく必要がある。

② 今後の改善方策

・コンプライアンス体制について周知だけにとどまらず、教職員に対する継続的な情報の開示やフローの確認を実施する
 ・理解度、活用度合を確認し、まだ活用しきれていない人に対し、個別にレクチャーをしていく。

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

（小島さん）

・コンプライアンスについては、世の動向として、意識せざるを得ない状況である。情報開示をより意識して実施していく必要性を感じている。

（片渕さん）

・学校は厳しい目で見られている。教職員には定期的にコンプライアンスの意識を伝え続ける必要性を感じている。本校は年3回の大きな会議にて周知しているが、高校ではどうか。

（西寺委員）

・高校でも全教職員の集まる大きな会議にて周知している。高等学校通信制は、特色として画一的な教育より個に合わせた教育であるため、コンプライアンス体制などが緩くなりがち傾向が多少ある。注意が必要だと感じており、随時発信している。

（片渕副校長）

・通信制高校では生徒に個別対応が多いか。

（西寺委員）

・個別対応が多い。面談の状況は見えづらいが、受付での対応については注視するようにしている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・昨年の課題として挙がっていた全教職員における意見交換する場を設け、昨年度の課題は改善されたが、指導力向上に関する研修の回数や研修によっては、対象が限られてしまう点に課題感を感じる。

② 今後の改善方策

雇用形態によっては、とれる時間に限りが出てしまうので、システムを利用するなどして、研修内容を広く共有できる仕組みを作る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・コロナ明けの対面授業方法について、今まで以上の指導力向上が必要になると考えているが、教職員の雇用形態が様々であるため、全体への研修などが実施にくく、全教職員に落とし込みにくさを感じている。(小島さん)
・授業評価方法を教えていただきたい(六田委員)

(小島さん)

・担当教科の教員評価アンケートをとり、教員へのフィードバックを実施している。事年度始めに全教職員がある会議にて注力ポイントを伝えて運営している。

(六田委員)

・アンケート実施、数値化は怖さもある。

(片渕さん)

・設問に自由記述欄もあるため生徒からの辛辣な言葉もあるので、伝え方には注意している。

(小島さん)

・生徒の声はひとつの参考値として伝えている。

(鮫島委員)

・園で実施している内容の中では、保護者との関係作りを大切にしており、保護者からの大きなクレームは入職後一度もなかった。

(六田委員)

・学校業界ではアンケート評価は一般的なのか。

(小島さん)

・大学、短大は一般的であるが、専門学校については、法人によって実施の有無に違いはあると考えられる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・資格取得率の向上を図る試みはするが、成果が出きれていない
- ・目標喪失、人間関係のもつれに起因する退学が多数出ている
- ・卒業生の就職先へ訪問を行い実態把握は務められたが、学校の教育活動の改善までむすびつけられていない

② 今後の改善方策

- ・履修科目の単位修得により資格取得の可不可が決定するため、単位修得率の向上に努めること。
および、資格取得の意欲喪失のないよう、現場経験教員による業界魅力付け・動機づけを行う。
- ・特に1年生に対する支援において、入学時点から業界に求められるレベルで教育をするのではなく、まずは日常生活の過ごし方を整えていくレベルから教育を施し、よりスモールステップを踏みやすい環境をつくる。
- ・卒業生から得た情報を、在校生が受講する科目の中でリリースするフローを確立させる。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(許斐さん)

- ・退学率が数値的に最も課題点だと思っている。卒業生として、退学した友達から聞いた話があれば教えていただきたい。

(鮫島委員)

- ・入学前後のギャップがあると思う。本当に保育士になりたいのかを改めて考え、揺らぎがあった友達が多かったように感じる。オープンキャンパス参加時に歳の近い運営委員の生徒と話をしたことでイメージが持ちやすかったが、人によっては情報を持っていなかったためギャップを感じたと思われる。別の話になるが、退学した同級生で保育士になったと聞いたことはない。

(三部さん)

- ・入学後のギャップを感じないような伝え方を検討している。退学者は何がギャップに感じていたのか分かれば教えていただきたい。

(鮫島委員)

・周りではできているのに、自分はできないと思ってしまうことが多かったように感じる。何かに自信を持つことが大切だと思う。入学前のオープンキャンパス等で、教職員がいない環境で在校生から入学後の大変なことも含め話せる機会が必要だと思う。実際に運営委員をしている時、先生方の前でどのようにマイナス面を伝えればよいか難しかった。

(三部さん)

・現在、オープンキャンパスで意識的に教職員がいない環境や、最終的に保護者・本人が決められるよう本音で話せる時間を作ろうとしている。

(六田委員)

・退学率の数値だけを追う必要がないのではないかと。やむを得ない選択もあると感じた。

(片渕さん)

・保育に対する意識の差があるため、子どもが好きという気持ちを大切にしたいと思っている。やむを得ない退学者を出してしまうことはあるが、実際に励まして資格を取り卒業をして社会で働いている事例もある。教職員としても少しできた要因があるとしたらやり切る必要があると考えている。

(六田委員)

・どのタイミングで退学を決断するかが大切で、退学の選択について背中を押してあげることも大切だと思う。

(小島さん)

・入学前のギャップをどう埋めていくかが大きな課題だと感じた。保育に対して気持ちがない層も少なくないため、壁にぶつかった時に乗り越えられる力を育てていきたいと考える。

(六田委員)

・学校の丁寧な教育を、採用した側でできているのか考えさせられた。

(西寺委員)

・通信高校では、6月までに3者面談を実施している。進学希望の中学生は、保護者主導であるため専門学校と大きな違いはあるが、保護者向けの進路面談を実施してもよいのではないかと。

(片渕さん)

・関心のない親もいるが、生徒と距離が近い保護者もいる。遠方在住の保護者に足を運んでもらうのは申し訳なさを感じるが、子どもが資格を取って卒業できれば保護者対応にもなると考える。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・(4)の学修成果で挙げたように、退学率を低減していくためにも、学校生活環境の整備(なじめる、悩みや不安に気づく、支えるための仕組みなど)が課題である。

② 今後の改善方策

・様々な角度からの支援を行う。(逃げ場を創る)

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(許斐さん)

・逃げ場、1人でいられる空間として、クールダウンルームを作る予定。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・海外研修が実施できていない。

⑥ 今後の改善方策

・社会情勢を見つつ、実施できる内容を検討していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・安定的な入学者の確保。
- ・入学前後のギャップの解消。

② 今後の改善方策

- ・小学生や中学生などの層への広報活動の実施を行う。
- ・在校生の成長や学びが見えるような広報活動を組み入れていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（許斐さん）

- ・中学生からの学校見学オファーがある。

（片淵さん）

- ・若年層人口の減少や、トレンド分野から保育分野が落ちてきている。現場職員として理由が分かれば教えていただきたい。

（鮫島委員）

- ・虐待のニュースが大きな原因だと感じる。保育分野は実際に現場に入ってみないと分からないと思う。

（六田委員）

- ・「保育所落ちた」の SNS 発信や事故のニュースから、保育業界がブラックな業界であるという印象のみが広まったと思われる。ネガティブな情報を一度得ると延々と同様な情報が勝手に流れてくるようになっていることも大きな要因だと考える。労働人口が激減しており、所得が上の方が好まれる傾向にあり、保育への気持ちは持ちにくい状況である

（片淵さん）

- ・子ども達の人気職業としてはまだ上位にいる。敏感に情報をキャッチできる世代であるからこそ、やりがいのある仕事であることを発信していくべきだと感じた。

(六田委員)

・保育士や看護師は資格があればすぐに転職も可能である。「何となく子どもが好き」という気持ちを保育業界としても大切にしたい。保育業界は未来に直結する場所であるので、養成校として業界自体を明るくしていただきたいと思う。

(西寺委員)

・通信制高校の生徒の情報収集はすべてスマートフォンでされている。初等部中等部 20 名いるが、イメージだけでは難しいため現場を見に行く機会が大切だと思っている。リアルな実体験を求めているので、イベントがあれば参加していきたい。学校説明ではない現場の体験はリアルで良いと思う。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、社会・地域貢献の機会創出が難しかった。
- ・公開講座の周知が弱い。

② 今後の改善方策

- ・社会・地域貢献として、積極的にボランティアなどの地域活動の案内をしていく。
- ・地域だけでなく卒業生なども含め、広く発信していく。

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

(小島さん)

- ・コロナ禍はボランティアがしづらかったが、今は多く機会をいただいている。生徒たちには学生期間中に様々な機会を自分の成長につなげていってほしい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(西寺委員)

・通信制高校の学校に毎日通う意識がない生徒が、画一教育を受けること、また、起立性調節障害を持った生徒の多さに課題を感じている。専門学校で学ぶことについて伝えていくことも大切だと思っている。登校型の通信制高校は登校する仕掛けを作っているが、登校をさせずオンライン授業のみの通信制高校もある。送り出す側と受け入れ側の連携が必要だと感じている

(片渕さん)

・今年度の1年生は真面目な生徒が多い。一方で、通う習慣がなく出席できない学生も一定層いるが、対面出席必須であるため大きな課題でもある。入学前教育ができると良いと思う。

(許斐さん)

・皆勤でなくてよい全日制高校も出てきている。保育者として学校に来ることを前提とするのではなく、社会人訓練校として慣れていく時期が必要だと感じている。仕組化するには時間が必要だと感じるが、専門学校等も歩み寄る必要があると思っている。

(六田委員)

・直面されている課題は大切なことであり、御校はSDGs教育のように「取りこぼさない教育」をされていると感じる。園にいる支援が必要な子を将来的に受け入れてくれる先もあるということを知ることができて良かった。